

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

2020年度 事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

【2020年度概要と成果】

- ・2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、事業活動に大きな影響があった年となりました。支援先となる非営利セクターでは活動停止や縮小を余儀なくされ、その支援先である困難を抱える方々の居場所や生活支援、雇用の場がなくなることで困難の拡大が見えなくなり、状況が悪化するという事態にも陥りました。4月には認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブと協働で県内NPOの実態調査を行い、その結果を踏まえ、緊急時の支援対応、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた活動への助成を行うことができました。
- ・助成原資は寄付金に加え今年度は新たに休眠預金を活用し、大規模な助成事業の実施を展開することができたことは当財団としての経験値を広げる機会となりました。今後も様々な資金を地域課題解決の取り組みに循環できるよう働きかけるとともに、委託事業に依存しない体質づくりも模索していきます。
- ・休眠預金活用法における資金分配団体として事業を行うために、コロナ緊急枠、通常枠の公募に申請し、千葉県で初めて採択されました。また、採択後は資金分配団体として助成先の公募、審査、助成先の伴走支援業務を行いました。
- ・体制面では、新たに助成事業担当として1名の職員を雇用し、主に休眠預金等活用助成事業の管理、助成先の伴走支援を担っています。
- ・資金調達面では、コミュニティ財団として地域における公益の増進に資する事業の展開と合わせて、事業連携などを模索しました。

【公益目的事業：公益活動支援助成事業】

1. 助成事業

(1) 事業指定助成プログラム

- ・事業計画に基づき、随時公募を行いましたが無応募はありませんでした。

(2) テーマ・地域型基金

ア. 子どもの今と未来を支える基金（継続）

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、休校措置や経済活動の停滞等の影響が及んでいる子どもやひとり親家庭、生活困窮家庭などへの緊急支援活動を支えるために「子どもの居場所緊急支援」としてウェブサイト等を活用し寄付を募りました。今年度寄付55件338万円。
- ・公益財団法人地域創造基金さなぶり事業指定寄付「47 コロナ基金」47都道府県「新型コロナウイルス対策」地元基金に参画し、本基金への寄付を受け付けました。
- ・一般社団法人全国食支援活動協力会より、新型コロナウイルス予防対策に伴い、小中高の休校が要請されたことを受けて活動を行うことも食堂等子どもの居場所運営団体支援を目的とした助成金30万円を申請、受領し、助成事業を実施しました。
- ・公益財団法人千葉日報福祉事業団に援助金10万円を申請、受領し、助成事業を実施しました。
- ・第一次公募助成：申請受付期間：2020年6月8日～6月17日
助成総額：200万円
申請件数：9件

採択件数：5 件

・助成先：

団体名・所在地	活動内容	助成金額
特定非営利活動法人ネモ ちば不登校・ひきこもりネットワーク（習志野市）	デュアルフリースクール移行事業	500,000 円
特定非営利活動法人ウィーズ（習志野市）	親の離婚を経験した子どものトータルサポート事業	500,000 円
特定非営利活動法人いちかわ市民文化ネットワーク（市川市）	コロナ禍で閉じ籠もりがちな障害児・者を抱える家族のためのサロン開設	320,000 円
NPO 法人多文化フリースクールちば（四街道市）	新型コロナウイルス感染防止自粛期間中の日本語指導	180,000 円
NPO 法人アビーズ（我孫子市）	新型コロナウイルスの影響による子育て世代の生活支援（フードドライブ、学習支援、レスパイト）	500,000 円

イ. まつど子育てささえあい基金（継続）

- ・「まつどでつながるプロジェクト」の活動をもとに、松戸市の親子の孤立を予防、制度の狭間にいる人に対する民間の取り組みを支援するための基金を設置し、リーフレットやウェブサイトを活用し、寄付を募りました。
- ・助成は実施していません。

ウ. 2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金（継続）

- ・2019 年度に台風 15 号、19 号、10 月豪雨による千葉県内の被災地における支援活動を支えるための基金を設置し、継続して寄付を募りました。今年度は、BRIDGE CHIBA ブルーシード大作戦や寄付付き商品販売等による寄付があり、今年度寄付 10 件 358 万円、昨年度からの寄付累計 185 件 956 万円となりました。
- ・第三次助成については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により現地の支援活動が遅れていたため実施していません。
- ・公益財団法人ひょうごコミュニティ財団からの助成金により、第一次、第二次助成の活動報告書を作成し、寄付者に送付しました。
- ・2019 年度助成の「飯岡まちおこし実行委員会」より新型コロナの影響で助成事業が開催できなくなったため、助成金（10 万円）が返金されました。

（3）冠基金プログラム

ア. さくら基金（継続）

- ・児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが不安を抱えることなく、自立した生活を送ることができるように、支援団体が実施するキャリア支援事業やアフターケア事業などに活用される基金であり、今年度は寄付募集を行いました。
- ・休眠預金等活用助成事業において、社会的養護下にある若者の自立支援事業を行うため、本基金への寄付拡充を行います。

イ. 中央ろうきん 2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金（継続）

- ・昨年度末、保留となっていた 1 件（100,000 円）の助成実施を行いました。
- ・2019 年度設置した「中央ろうきん 2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金（特別枠）」では、助成した 6 事業のうち、3 事業が新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期されたため事業の軽微な変更手続きを行いました。すべての助成事業完了の見込みは 2021 年度 6 月頃の予定です。

2. 資源仲介事業

公益活動を支援したい個人、企業、団体等からの資金以外の各種資源（人材、物品、情報など）を市民公益活動団体に仲介する事業であり、今年度は以下の事業を行ないました。

(1) 多様な寄付の機会の提供（今年度収入：316,707 円）

- ・寄付付き自動販売機（支援ベンダー）：新規設置なし（現在 7 台設置）
- ・買取寄付プログラム「カイトリ」：実績なし
- ・使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置：8ヶ所
これらの寄付金は公益目的事業運営として一般寄付金になります。
- ・募金箱の設置：1ヶ所
- ・寄付付き商品：認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所（茨城県）発行の英単語カレンダー、ひらがなれんしゅうちょう等を生活クラブ生協の組合員向けに販売しました。
これらの寄付金は「子どもの今と未来を支える基金」への寄付になります。

(2) 情報共有の場づくり

ア. 助成事業成果報告会

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施しませんでした。

3. 助成業務等支援事業

(1) 「千葉日報子どもの育ち応援基金」資金助成に関する業務委託（受託事業）（700,000 円）

- ・公益財団法人千葉日報福祉事業団では、子どもの育ちを応援する団体の活動を支援するため、2018 年度、3 年間の期限付きで本基金を設立しました。資金助成に関する業務について当財団が受託しています。
- ・今年度は、2021 年度助成に係る募集要項・申請書の策定、オンラインでの募集説明会、個別相談、申請受付、選考会の運営等を実施しました。3 月に予定していた贈呈式は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。
- ・2021 年度公募助成：申請受付期間：2020 年 12 月 1 日～12 月 18 日
申請件数：10 件（うち 1 件辞退）
採択件数：6 件
助成総額：346 万円 ※助成金については、千葉日報福祉事業団より直接支払い
- ・助成先：

団体名・所在地	活動内容	助成金額
NPO 法人 3.11 こども文庫 おひさま	子どもや若者をひとりぼっちにしない	1,000,000 円
一般社団法人はこぶね	社会的養護の若者のためのアフターケアおよびシェアハウス事業	1,000,000 円
NPO 法人ハイティーンズサポートちば	高校生、高校中退者など 10 代後半の若者への食支援、修学・就労支援と個別相談活動	800,000 円
NPO 法人あそび発達サポート研究所	あすらぼワークショップ(あす研)	260,000 円
NPO 法人多文化フリースクールちば	「多文化フリースクールちば」の全県化(第 1 期 3 年目)	200,000 円
ちば中高生放課後カフェ運営委員会	中高生のための放課後カフェ TonoRosso 運営事業	200,000 円

(2) 休眠預金等活用助成事業「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」 (61,431,000 円)

- ・本助成事業は、国及び地方公共団体が対応することが困難な社会的課題の解決を図り、民間公益活動の自立した担い手の育成並びに民間公益活動に係る資金を調達することができる環境を整備することを目的とし、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（「休眠預金活用法」）」及び同法施行規則等関連法令の規程にもとづき実施する事業です。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により深刻化する課題に対して、一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成 28 年法律第 101 号）」に基づく指定活用団体として、民間公益活動を行う団体（実行団体）に対して助成を行う資金分配団体の公募を実施した結果、当財団が採択されました。千葉県内において公益的・社会的な活動を行っている民間公益活動団体に対し公募助成を行うものです。
- ・財源は、JANPIA との契約限度額による。
- ・事業概要：新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策や経済活動の停滞により経済的、精神的、身体的影響を受けたひとり親家庭、子ども、高齢者や、職や住居を失った生活困窮者など社会的孤立リスクの高い層のニーズに対応する支援活動に対し、アフターコロナを見据えた効果的アプローチ+地域連携により、コロナ禍で深刻化した課題の解決の取り組みに対し公募助成を実施する。
- ・公募状況：申請受付期間：2020 年 8 月 7 日～8 月 31 日
 申請件数：13 件
 採択件数：6 件
 助成総額：5,000 万円
- ・助成期間（実行団体の事業実施期間）：2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日
- ・助成先：

団体名・所在地	活動内容	助成金額
NPO 法人ダイバーシティ工房	居場所がない子ども・若者の居場所事業～リスクの高い若年女性向けシェルター運営～	10,000,000 円
NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド	地域と連携した貧困脱却のための自立支援～見えないう壁を打ち壊すために～	9,014,200 円
NPO 法人ワーカーズコレクティブういず	キッチンカーで GO！～どこでもこども食堂&暮らしのサポート～	8,597,760 円
NPO 法人生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会	仕事や住まいを無くした人の地域定着支援～ひとりにさせない伴走型支援～	3,000,000 円
企業組合労協船橋事業団	新型コロナにより住居を失った人の支援事業～シェルターの運営と地域への定着～	9,990,000 円
NPO 法人ケアラーネットみちくさ	コロナ禍を乗り越え、共生社会をめざして～住民と専門職とがつくる互助センター～	9,398,040 円

- ・伴走支援の実施：助成先団体に対し、事業進捗状況の確認、助言、持続可能な取り組みに向けた組織基盤強化、資金調達支援、人材育成支援、関係各所との調整等を実施しています。

(3) 休眠預金等活用助成事業「社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業」 (41,547,640 円)

- ・本助成事業は、国及び地方公共団体が対応することが困難な社会的課題の解決を図り、民間公益活動の自立した担い手の育成並びに民間公益活動に係る資金を調達することができる環境を整備することを目的とし、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（「休眠預金活用法」）」及び同法施行規則等関連法令の規程にもとづき実施する事業です。

- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成 28 年法律第 101 号）」に基づく指定活用団体として、民間公益活動を行う団体（実行団体）に対して助成を行う資金分配団体の公募を実施した結果、当財団が採択されました。千葉県内において公益的・社会的な活動を行っている民間公益活動団体に対し公募助成を行うものです。
- ・財源は、JANPIA との契約限度額による。
- ・事業概要：児童養護施設入所者、退所者等、適切な保護者の関与がなく強制的に自立を迫られる 15 歳～30 歳未満の基盤の弱い若者に対する、退所前の支援（キャリア教育、生活支援等）の質的・量的拡充と、退所後の支援（就労支援、住居支援、人材育成等）の質的・量的拡充を図り、多様な主体（施設、事業者、NPO、学校等）の連携により地域資源（第一次産業、地域産業、空き家、都市と農村等）を活用した安心して居ることのできる居場所の創出、地域とつながる仕事の創出をすることで、地域において退所した後も中長期につながることができる社会包摂システムを構築する。
- ・公募状況：申請受付期間：2021 年 1 月 15 日～2 月 15 日
申請件数：4 件
採択件数：4 件
助成総額：7,664.2 万円
- ・助成期間（実行団体の事業実施期間）：2021 年 4 月～2024 年 1 月 31 日
- ・助成先：

団体名・所在地	活動内容	助成金額
一般社団法人はこぶね	こころをつなぐアフターケア事業～『あなたとともに（友）にいる』オトモダチ作戦～	16,642,864 円
ちば子ども若者アフターケアコンソーシアム（構成団体：ちば子ども若者ネットワーク、社会福祉法人チルドレンス・パラダイス、NPO 法人長生夷隅地域のくらしを支える会）	ちば子ども若者アフターケアネットワーク	20,000,000 円
株式会社ベストサポート	大人の TERAKOYA まなぶ！つどう！つなぐ！～ぼくらはアシタに歩いていく	20,000,000 円
一般社団法人いっぽの会	社会へ『いっぽ』を踏み出す基盤づくり事業 セルフマネジメント（正しく SOS を出せる力をつける）	20,000,000 円

- ・伴走支援の実施：助成先団体に対し、事業進捗状況の確認、助言、持続可能な取り組みに向けた組織基盤強化、資金調達支援、人材育成支援、関係各所との調整等を実施しています。

4. 他機関等との連携

(1) 一般社団法人全国コミュニティ財団協会

- ・全国コミュニティ財団協会は、コミュニティ財団の健全な発展を通じて、市民社会のより一層の成熟と市民が主体的に取り組む地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進することを目的として設立をしたコミュニティ財団の全国組織です。
- ・当財団は、加盟団体であり、当財団の専務理事・事務局長が協会の理事（非常勤）を務めています。
- ・今年度は、以下の事業に参画しました。
 - (1)理事会、社員総会、会員意見交換会への参加
 - (2)関東甲信越ブロック会議の運営、参加

(2) 一般社団法人全国レガシーギフト協会

- ・遺贈寄付、資産寄付への関心が高まりつつある昨今、遺贈寄付が本人の望む最適な形で実現し、寄付した財産が地域の未来資産となり世代を超えて継承される社会を実現するために、全国的な仕組みとして全国レガシーギフト協会が2016年11月に設立されました。当財団は加盟団体として今年度以下の事業に参画しました。
- ・遺贈寄付に関する相談窓口を設置し、対応。今年度の相談実績はありません。

(3) ちばソーシャルビジネス支援ネットワーク

- ・本ネットワークは、地域社会の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者を支援するため、主に千葉県内の金融機関5機関と中間支援組織により2017年1月に発足した組織です。
- ・今年度の活動はありません。

(4) その他

ア. 啓発事業・講師派遣 (310,000円)

- ・市原市市民活動アドバイザー業務受託事業について、理事長が担当し、市民活動団体や多様な主体が連携して地域の課題を共有し解決に向け、取り組んでいけるよう市原市の中間支援機能を強化するため、専門的な知見に基づいた指導や助言を行いました。
- ・うらやす市民大学コーディネイト業務について、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開講中止となりました。
- ・IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]主催「支援・評価・助成の基礎と戦略」連続オンライン講座実務編に専務理事が登壇し、助成事業の実務について事例報告をしました。

イ. 他機関との連携協働

- ・4月、認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブと協働で「新型コロナウイルス感染拡大への対応及び支援に関する千葉県内NPO法人等緊急アンケート」を実施し、その結果をもとに「新型コロナウイルスの影響によるNPO及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」を千葉県と千葉市に提出しました。調査結果は、助成事業案件形成に役立てることができました。

調査結果詳細 <https://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/200>

要望書詳細 <https://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/201>

- ・被災地で使用したブルーシートでトートバッグ（ブルーシードバッグ）をつくり、ゴミの削減と被災地支援につなげるプロジェクト「BRIDGE CHIBA プロジェクト」にプロジェクトメンバーとして参画しました。メンバーは千葉テレビ放送、グロリア、LOVES COMPANY、ちばぎんハートフル、ちばのWA地域づくり基金。寄付金は「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」を通じて被災地支援活動に助成の予定です。
- ・千葉県内の支援組織、自治体との情報共有を図ることを目的に、千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議（千葉県主催）に加盟し、ネットワーク会議に参加しました。
- ・事務局長が務める印西市市民活動推進委員会は新型コロナ感染拡大の影響により開催されませんでした。書類審査で行われた企画提案型協働事業の審査にあたりました。

ウ. その他

- ・助成申請案件以外にもNPO等からの相談対応を随時行いました。

5. 財団運営活動

(1) 情報発信・啓発活動

- ・ホームページ、ブログ、SNSによる情報発信を随時行いました。
- ・外部からのヒアリングに随時対応しました。

【メディア掲載】

- ・10月5日千葉日報：ちばオピニオン「コロナ禍の孤立解消へ 誰も取り残さない社会を」
- ・10月7日千葉日報：台風豪雨1年 千葉テレビ企画収益寄付
- ・1月25日毎日新聞：ちばの底力「支援の輪 広がりに期待」

(2) 資金調達活動

- ・理事を中心に新規個人や法人に対しての寄付依頼、既存寄付者への依頼、ウェブサイトを活用して呼びかけを行いました。
- ・多様な資金を助成事業に活用するために、休眠預金やその他の助成金申請を検討、実施しました。

(3) 当財団への寄付

- ・継続的に財団運営を応援してもらう仕組みとしてのサポーター登録の呼びかけを実施しています。現在サポーターは16名、寄付額は373,000円となりました。
- ・その他に、当財団事業運営への寄付として約35万円の寄付を受領しました。

【法人運営（管理）事業】

1. 機関会議の運営

(1) 評議員会の開催

- ・第1回評議員会（2020年6月13日14時～15時30分 当財団事務所及びオンライン）
 - 第1号議案 2019年度事業報告及び附属明細書の承認
 - 第2号議案 2019年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認
 - 第1号議案 2018年度事業報告及び計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）並びに財産目録の承認
 - 第3号議案 定款変更
 - 第4号議案 評議員の選任
 - 第5号議案 理事の選任
 - 第6号議案 監事の選任
- 報告事項 2020年度事業計画及び予算について、寄付募集について、各種規程について

(2) 理事会の開催

定例理事会は4回、臨時理事会（みなし会議）を6回開催しました。

- ・第1回理事会（2020年5月21日16時15分～17時50分 オンライン）
 - 第1号議案 理事長代行について
 - 第2号議案 2019年度事業報告及び附属明細書の承認

- 第3号議案 2019年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認（監査報告）
- 第4号議案 評議員会の招集日時・内容
- 第5号議案 常勤役員報酬月額承認
- 第6号議案 給与規程の改定
- 報告事項 助成事業進捗報告、「子どもの今と未来を支える基金」助成金受領報告、助成業務等支援事業（千葉日報福祉事業団）事業報告
- ・第1回臨時理事会（2020年6月13日16時05分～16時30分 当財団事務所及びオンライン）
 - 第1号議案 代表理事（理事長）選定
 - 第2号議案 業務執行理事選定
 - 第3号議案 副理事長、専務理事選定
 - 第4号議案 顧問の選任
 - ・第2回臨時理事会（2020年8月3日 みなし決議）
 - 第1号議案 休眠預金等活用法における新型コロナウイルス対応緊急支援助成に係る、一般財団法人日本民間公益活動連携機構との資金提供契約締結についての承認
 - ・第2回理事会（2020年9月12日14時～16時15分 当財団事務所及びオンライン）
 - 第1号議案 倫理規程改定
 - 第2号議案 コンプライアンス規程改定
 - 第3号議案 公益通報者保護に関する規程改定
 - 第4号議案 2019千葉県台風・豪雨災害支援基金取り扱いについて
 - 第5号議案 業務執行理事の職務執行状況の報告
 - 報告事項 助成事業進捗報告、コンプライアンス委員会開催について、求人状況報告、会計報告
 - ・第3回臨時理事会（2020年9月24日 19時～20時10分 オンライン）
 - 第1号議案 休眠預金等活用「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」採択団体承認
 - ・第4回臨時理事会（2020年9月25日 みなし決議）
 - 第1号議案 倫理規程改定についての承認
 - 第2号議案 コンプライアンス規程改定についての承認
 - ・理事会第3回理事会（2020年12月12日14時10分～15時35分 当財団事務所及びオンライン）
 - 第1号議案 休眠預金緊急枠実行団体事業変更についての承認
 - 第2号議案 中央ろうきん2019千葉県台風豪雨災害支援基金助成事業遅延についての承認
 - 報告事項 助成事業進捗報告、休眠預金事業緊急枠、通常枠事業進捗報告、助成業務等支援事業（千葉日報福祉事業団）進捗報告、会計報告
 - ・第5回臨時理事会（2020年12月21日 みなし決議）
 - 第1号議案 休眠預金等活用法に基づく2020年度通常枠実施に係る、一般財団法人日本民間公益活動連携機構との資金提供契約締結についての承認
 - ・第4回理事会（2021年3月13日 14時～16時 オンライン）
 - 第1号議案 2021年度事業計画及び収支予算書等について
 - 第2号議案 選考委員の選任について
 - 報告事項 業務執行理事の職務執行状況の報告、助成事業進捗報告、会計報告
 - ・第6回臨時理事会（2021年3月22日 みなし決議）
 - 第1号議案 休眠預金等活用法に基づく2020年度通常枠内定団体の決定と2次募集についての承認

(3) 監査の実施

- ・ 監事が全4回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施しました。
- ・ 2020年5月13日に2019年度の監査を実施し、監査報告書を作成しました。また第1回理事会、定時評議員会に出席し、監査報告を行いました。

(4) コンプライアンス委員会の開催

コンプライアンス規程に基づき委員会を設置し、開催しました。

- ・ 第1回（2020年9月28日14時～14時40分 当財団事務所）
出席者：泉貴嗣理事（コンプライアンス担当理事）、金山卓晴弁護士、志村事務局長、元吉総務担当
議題：規程設置状況について、活動状況について、新型コロナウイルス感染防止対策状況について
- ・ 第2回（2021年3月23日13時～13時45分 オンライン）
出席者：泉貴嗣理事（コンプライアンス担当理事）、金山卓晴弁護士、志村事務局長、元吉総務担当
議題：活動状況について

2. 役員に関する事項

(1) 評議員

今期は評議員の改選期のため、6月13日の評議員会において、以下6名の評議員が選任されました。

- 就任（重任）：桜井 義維英、篠塚 泉、戸谷 久子、萩原 博、渡辺 元
- 就任（新任）：黒河 悟

(2) 理事

今期は理事の改選期のため、6月13日の評議員会において、以下6名の理事が選任されました。

- 就任（重任）：有吉 徳洋、岩永 牧人、志村 はるみ、平井 晋也、牧野 昌子
- 就任（新任）：泉 貴嗣

6月13日の理事会において、理事の中から代表理事及び業務執行理事を以下の通り選定しました。

- 代表理事・理事長 牧野 昌子
- 業務執行理事・副理事長 有吉 徳洋
- 業務執行理事・専務理事 志村 はるみ

(3) 監事

今期は監事の改選期のため、6月13日の評議員会において、以下2名の監事が選任されました。

- 就任（重任）：内山 真義
- 就任（新任）：前原 東二

3. 事務局体制

(1) 組織体制

期首は2名が在籍していましたが、事業拡充に合わせて9月に採用活動を行い、10月より助成事業担当として1名を雇用しました。

期末時点で、事務局職員3名が（常勤2名、パートタイム1名、事務局長含む）が在籍しています。

(2) 各事業の人員配置

助成事業・資金調達事業担当・受託事業：2名

経理・総務・事業経理：1名

法人管理運営：1名（兼務）

(3) 勤務体制

今年度は、在宅勤務を併用した勤務体制としました。

(4) 職員研修とスキルアップ

- ・非営利組織への理解を深めるための内部研修（2020年12月7日）を行いました。
- ・助成事業担当業務の理解を深めるためのプログラムオフィサー研修（内部）に職員2名が4回参加しました。
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）によるプログラムオフィサー研修に職員2名が計3回参加しました。
- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）によるコーチング研修に職員2名が計7回参加しました。

4. 寄付者等の情報管理 (Donor Relationship Management)

個人情報保護方針等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce社のシステムを利用、データベースの適切な管理と活用を行っています。

Salesforce利用にあたっては、Salesforce社や（公財）京都地域創造基金のサポートを受け、効率運用できるよう取り組んでいます。

※Salesforce：CRMクラウドサービスを提供する業界トップのグローバル企業。NPO法人等への無償提供プログラムなどCSRにも積極的に取り組む。<http://www.salesforce.com/jp/>

添付資料：

- ・2020年度 ちばのWA地域づくり基金助成等選考委員会選考会開催状況
- ・業務執行理事の職務執行状況報告
- ・間接的な寄付についての報告

**2020年度 ちばのWA地域づくり基金助成等選考委員会
選考会開催状況**

■「子どもの今と未来を支える基金新型コロナ対策緊急支援助成プログラム（第一次）」

助成対象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募集方法：公募

選考方法：申請書類及び団体情報開示内容をもとに、選考委員 3 名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2020年6月26日
- ・会場：ちばのWA地域づくり基金事務所
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：小松 孝之、清水 洋行、戸谷 久子

選考基準：

- (1) 本基金の助成趣旨や条件に合致しているか
- (2) 計画性 新型コロナウイルスの影響で生じた課題であり対象者は明確か
- (3) 緊急性 事業の緊急性、必要性が高いか
- (4) 妥当性 困難な状況下にいる子ども、若者やその保護者に支援が届く事業内容であるか
- (5) 実行性 事業計画の実現可能性
- (6) 信頼性 組織全体は適切に運営されているか

選考結果：5事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

■休眠預金等活用助成事業「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」

助成対象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募集方法：公募

選考方法：申請書類及び事務局によるインタビューをもとに、選考委員 5 名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2020年9月23日
- ・会場：千葉市生涯学習センター
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：岩村 真奈美、上野 聡、川上 浩嗣、小松 孝之、清水 洋行

選考基準：

- (1) ガバナンス・コンプライアンス 包括的支援プログラムに示す事業を適確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか
- (2) 事業の妥当性 事業対象となる社会課題について、問題構造の把握が十分に行われており、事業対象グループ、事業設計、事業計画（課題の設定、目的、事業内容）が解決したい課題に対して妥当であるか。

- (3) 実行可能性 業務実施体制や計画、予算が適切か
 - (4) 継続性 助成終了後の計画（支援期間、出口戦略や工程等）が具体的かつ現実的か
 - (5) 先駆性（革新性） 社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか
 - (6) 波及効果 事業から得られた学びが組織や地域、分野を超えて社会課題の解決につながることを期待できるか
 - (7) 連携と対話 多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されているか
- * 支援実施の緊急性に鑑み、①申請事業の妥当性、②実行可能性、③コンプライアンス・ガバナンス体制、過去に申請にかかる活動の実績があり、適切に業務を遂行できる団体であることを重視した。
- (優先選定事項)
- ・地域の多様な資源の活用
 - ・アフターコロナを見据えた連携体制の構築本基金の助成趣旨や条件に合致しているか

選考結果：6事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開、メディアリリース

■千葉日報子どもの育ち応援基金 2021 年度助成

助成対象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募集方法：公募

選考方法：申請書類及び団体情報開示内容をもとに、選考委員 5 名による審査を行った。

※募集時予定していた公開プレゼンテーションは新型コロナウイルス感染拡大により中止した。

助成等選考委員会：

- ・日時：2021 年 2 月 6 日
- ・会場：千葉市生涯学習センター
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：飯田 耕一、勝又 恵里子、胡内 敦司、田村 光子、平井 晋也

選考基準：

- (1) 本基金の助成趣旨や条件に合致しているか
- (2) 課題把握 解決すべき課題の把握と認識ができており、それは解決が必要な課題であるか
- (3) 実現可能性 実施体制や計画性があると見込めるか
- (4) 展開可能性 助成を行うことにより地域への広がりや当事者を取り巻く環境の改善につながるか

選考結果：6事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

■休眠預金等活用助成事業「社会的養護下にある若者に対する社会包摂システム構築事業」

助成対象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募集方法：公募

選考方法：申請書類及び事務局によるインタビューをもとに、選考委員 5 名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2021 年 3 月 15 日
- ・会場：ペリエホール

・選考委員（五十音順・敬称略）：岩村 真奈美、上野 聡、粉川 一郎、小松 孝之、清水 洋行

選考基準：

- (1) ガバナンス・コンプライアンス 包括的支援プログラムに示す事業を適確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を備えているか
- (2) 事業の妥当性 社会状況や課題の問題構造、当事者(社会的養護下にある若者)のニーズや特性の把握を十分かつ具体的に行った上で課題を設定し、適切な事業を提案できているか
- (3) 実行可能性 業務実施体制や計画、予算が適切か
- (4) 継続性 助成終了後の計画（支援期間、出口戦略や工程等）が具体的かつ現実的か
- (5) 先駆性（革新性） 社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか
- (6) 波及効果 事業から得られた学びが組織や地域、分野を超えて社会課題の解決につながることを期待できるか
- (7) 連携と対話 多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されているか

選考結果：4事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開、メディアリリース

以上

業務執行理事の職務執行状況報告

■理事長

- ・「新型コロナウイルスの影響による NPO 及び多様な市民活動の存続危機に対する支援に関する要望書」千葉県知事宛、千葉市長宛提出
- ・市原市市民活動アドバイザー業務受託事業担当
- ・寄付金授与式、感謝状贈呈式出席（フルヤ乳業様、千葉マツダ様、BRIDGE CHIBA プロジェクト様、秀榮様）
- ・休眠預金コロナウイルス対応緊急支援助成、JANPIA 相談会、採択団体説明会出席
- ・休眠預金活用助成通常枠 JANPIA 面談出席
- ・千葉県子ども・若者育成支援室、児童家庭課訪問（休眠預金通常枠概要説明）
- ・理事会、評議員会出席
- ・各助成事業説明会及び審査会出席

■副理事長

- ・理事会出席
- ・周知活動として、毎月アーティストとともに配信、募金活動実施

■専務理事

- ・法人登記、事業報告書提出、変更届提出、入札参加資格届等法人管理業務
- ・理事会準備、運営、理事ミーティング準備、運営
- ・コンプライアンス委員会開催
- ・職員採用活動、研修企画実施
- ・法人会計、労務管理
- ・「子どもの今と未来を支える基金」公募助成企画、運営業務全般
- ・休眠預金緊急枠資金分配団体申請、採択を受け契約、事業実施（助成先の公募、審査、助成先の伴走支援業務）
- ・休眠預金通常枠資金分配団体申請、採択を受け契約、事業実施（助成先の公募、審査、助成先の伴走支援業務）
- ・「千葉日報福祉事業団子どもの育ち応援基金」公募説明会、選考会、福祉事業団対応
- ・寄付金授与式、感謝状贈呈式出席（フルヤ乳業様、千葉マツダ様、BRIDGE CHIBA プロジェクト様、秀榮様）
- ・各助成事業進捗確認、報告書まとめ等

■理事長（決裁）

- ・2020年5月14日 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団覚書締結の件
- ・2020年5月29日 事務所賃貸契約更新契約の件
- ・2020年6月25日 市原市市民活動アドバイザー業務受託の件
- ・2020年7月9日 子どもの今と未来を支える基金助成先団体覚書締結の件
- ・2020年7月20日 パート職員雇用契約
- ・2020年8月3日 休眠預金緊急枠指定活用団体との資金提供契約締結の件

- ・2020年8月26日 プログラムオフィサー育成業務委託契約締結の件
- ・2020年10月1日 評価アドバイザー業務委託契約締結の件
- ・2020年10月1日 契約職員雇用契約
- ・2020年10月29日 休眠預金緊急枠実行団体との資金提供契約締結の件
- ・2020年12月21日 助成等選考委員就任依頼書
- ・2020年12月22日 休眠預金通常枠指定活用団体との資金提供契約締結の件
- ・2021年3月2日 助成等選考委員就任依頼書
- ・2021年3月24日 千葉日報子どもの育ち応援基金助成先団体覚書締結の件

(理事会決議に関わる提案)

- ・2020年7月31日 決議の省略の件 (休眠預金等活用助成事業緊急枠資金提供契約締結に係る提案)
- ・2020年9月23日 決議の省略の件 (規程の改定に係る提案)
- ・2020年12月8日 決議の省略の件 (休眠預金等活用助成事業通常枠資金提供契約締結に係る提案)
- ・2021年3月18日 決議の省略の件 (休眠預金等活用助成事業内定団体決定と2次募集に係る提案)

以上

間接的な寄付についての報告

■寄付付き自動販売機（支援ベンダー）設置場所

- ・株式会社エスプールプラス わーくはびねす農園（船橋市）2台
- ・有限会社飯田産業（千葉市）1台
- ・株式会社ソーケン製作所（市川市）1台
- ・ホテルメイプルイン幕張（千葉市）1台
- ・のぞみのマルシェ（袖ケ浦市）1台
- ・NPO 法人みらい工房（茂原市）1台

■使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置場所

- ・生活クラブ虹の街
- ・コープみらい
- ・NPO 法人子ども劇場千葉県センター
- ・認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
- ・多世代交流拠点おおなみこなみ
- ・あすみが丘ガーデンコート自治会
- ・大和ハウス工業株式会社千葉中央支社
- ・四街道市みんなで地域づくりセンター

■募金箱

- ・ホテルメイプルイン幕張

以上